

苫小牧市学校給食共同調理場運営審議会議事録

平成28年8月29日（月）
市役所第2庁舎 2階北会議室
午後3時～4時15分

事務局 　　ただ今から平成28年度苫小牧市学校給食共同調理場運営審議会を開催致します。

このたび2年に1回の運営審議委員の交代があったことから、教育長より本日出席者に対し、委嘱状の交付を行った。教育長の挨拶、審議委員及び事務局より自己紹介後、本日の審議会は12名中9名の出席があり、会議が成立することを報告後、教育長が仮議長となり議事を進め、会長及び副会長の選出にあたり、事務局より、会長は木村春樹委員、副会長は関谷雅弘委員を提案、全会一致決定した。

以下、木村会長の議事進行。

木村会長 　　それでは次第の5 報告事項に入ります。第1号学校給食共同調理場の現況について、事務局から説明をお願いします。

次第の5 報告事項 第1号 学校給食共同調理場の現況
について事務局より説明（内容は別紙参照）

（木村会長）

ただ今の報告につきまして、委員の皆様からのご質問・ご意見はございますか。

たまたま、2～3日のニュースでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、厚労省で食物アレルギーの調査結果を発表しており、家庭で何らかの食物アレルギー対策をしている割合

が25%という数字が出ております。

4人に1人ということですね。

残念なのが25%のうち根拠の無い対策を講じている家庭がそのうち40%なんです。

実は私も薬剤師としてかかわっていて、学校でもここは大変重要視していることでして、本当にアレルギーかどうか分からないんですが、アレルギーと言ってくるので対策に右往左往しているという事情があります。

給食についてもこうならないように最初から管理表等を準備してやっていると思います。

(晴山委員)

子供が卵アレルギーでアナフィラキシーショックを起こすかもしれないということを医師の指導の下でチェックしておりますが、1年生の途中から給食に卵が入っていないものを食べさせてもらえるようになって、2年かけて木村会長が作って戴いた資料のように順番を経て毎月給食を食べれるようになりましたが、最近3年生になって今年の4月に校長、教頭、担任及びクラスも一気に変わるということになり、今後お願いしたいのですが、新センターが出来てアレルギー対応食について栄養士の方達が一生懸命献立を作って戴いても、確実に必要な子供達の口に入って無事に家に帰ってくればいいなという感じなんです。

その為に学校とか子供ごとに状況が異なりアレルギーも難しいことは分かるんですが、重症別とかにしても市教委で献立が出来てから食べ終わるまでのマニュアルをしっかりと作って欲しいと思いました。

木村会長が個人的に仕事でここまでまとめて下さっているので、これを使って4月に私から先生たちに面談をする形をとりましたが、先生たちも4月の始業式が始まる前にいきなり言われても戸惑うし、すぐに理解してもらうことは難しいんですね。そういうしわ寄せが子供に行くので。

ここに書いてある、”おかわり”についてですが、卵の入っているもののおかわり、卵入りのメニューが入っているもののおかわりを昨年度分けてやることになっていたんですが、先週の木曜日に口に入ってしまって、急遽薬を飲んでしまうことにな

りました。

大事に至らなくて良かったですけれども、こういうちょっとした気の緩みというか、私も子供もなっていないなと思っていても、やはり言いにくかったりしますし、先生たちも初めてなので昼も忙しかったりしますから、気づかないということもあり、こういうことが重なった時に大きな事故が起きることを主人からも言われていたので、マニュアルが出来たとしてもそれが行われているかのチェック体制も必要と感じました。

先生たちは、皆の意識を高めることは必要ですが、研修等も学校任せになっていると内容もバラバラになってしまっはいけないし、当った先生たちの考え方で子供達の対応が変わってゆくのはあってはいけないと感じています。

市も先生もとても負担が大きいので、やりたくないなと思いますが、当たり前給食を食べてきた人は分からないと思います。

給食は家庭では与えきれない大切な場ということを実感し息子の様な子供達は大勢の中で同じものを食べるという経験は中々できないと思っています。

でも有難く思っています。1人でも多くの子供に受け入れられるように、頭が痛い問題ですが是非しっかりしたものを作って欲しいです。

切実に感じているのでお忙しいとは思いますが、宜しくお願いします。

(和野教育長)

貴重な意見を戴きました。

晴山さんがおっしゃったとおり完璧なマニュアルって多分正直申し上げて難しいと思います。

大切なことは1人1人の状況を理解するということだと思えます。

マニュアルでは解決できない問題だという印象を受けてます。

そこを目指すことが先生達に対する私共のあり方と考えます。

マニュアルについては色々な意見で作る事はできても、そのとおりやればいいのかという決めてそうではない。

今回のケースであれば学校に対してもきちんと審議委員としてではなく親として発信をしていかないと取り返しのつかないことになった可能性もあるわけです。

アレルギーは難しいということはよく分かっております。右から左にやりますということの中々言えないのはそこに難しさがあるからです。

(小松委員)

今、具体的にやっているのは卵だけのアレルギーなんですか。

(事務局)

卵の除去だけのものです。

今年の3学期の1月から開始はしておりますがマニュアル化ということを言われていますが、学校によって作りも違っており、例えば配膳の方法ですが配膳室から教室に持っていく方法も違ってきます。

またクラスで子供達に配る方法も学校が違えば、配り方も違う、それぞれやり方があります。

今私共で6人に対しアレルギー食を出していますが、事前にシュミレーションをやって教室まで配る方法を担任なり養護の先生と合わせてこれでOKということをやっています。

実際給食が始まった時に、私共と一緒にいてどういう形で行って行くかを確認し再度子供達の口に入るまでを最後に確認しています。

ですから非常に時間がかかっているのが現実です。

今後マニュアルということですが、先程も申し上げたとおり完璧なものは難しいと思っています。

(和野教育長)

今みたいな練習をしてマニュアルができるんですよ。

但し、人が変わればそれを引き継いでいくための意識がしっかりしてないといけない。

周囲の協力がないと抜けてしまう。

そこが怖いんですよ。

皆で協力をして子供達を守っていかねばと思います。

(晴山委員)

私の言い方が悪かったかもしれませんが、マニュアルというものが改善の方法だとか、栄養教諭がいるとかいないとか、それぞれ違うのもそうですし、実際やってみないとわからないと思います。

献立が決まってから物を食べるとか食べないとか、配る為の表を作るとか、おかわりをするにはこの紙を持っていくとか子供によって必要があるのかないのか、何から気をつけていけばいいかわからないんですよ。

担任にも何か分からないことがあれば、相談してとありますが、何が分からないのか分からない。

こういう状態なので、意識を持って欲しいんですけど他にもたくさんある中での手順だとかがなければ出来ないと思います。

(緒方委員)

うちの学校はとても小さな学校なので1人どうしても給食を食べれない子がいて、1年のときから母親が朝から給食を食べ終わるまでずっと教室にいたんですね。

2年の夏休み位までずっと母親が来てくれてやっていたんですが、そういうアレルギーのある子で学年が変わってクラスも変わり友人も全て変わったりした時に、母親が教室へ行ってみたりとかはできないものですか。

(晴山委員)

今でも食べ終わって配膳するところだとか、子供が取って席に着くところまでも確認しています。

またいい先生がついて下さって、給食当番をやっている間に間違ったものが入らないかというところを見ていてくれたりしています。

チェックも2重3重にやっていますがどうしても抜けてしまうところがあるのが現状です。

私のようなことが出来る場合と出来ない場合があると思うんです。

その家庭環境によってくると思います。

共通して守れることができるようにお願いしたいです。

(木村会長)

マニュアルの問題から行くと色々なステージのマニュアルがある訳で、教育委員会にマニュアルというと全ての事例にということだと思っんですよね。

教育委員会や調理場が何かそういうことをしなければならぬ指針といますか、方針はきちんと学校に出してあげて欲しいと思います。

その時に学校医も歯科医も様々な職種の人達も委嘱されているわけですから。

晴山さんのケースはかなり厳しくしてゆかなければならぬケースで相当詳細なマニュアルが、しかもこれだけやっけてもまだ危ないケースがあるので、方向性を指示してあげて欲しい。

(小松委員)

アレルギーをやっけていますと云って事故が起きた時に、責任の所在をどうするかということが一番大切になってきますよね。

厳しい制限があればあるほど、実行するのが難しいと云えてしまいますよね。

現場の方から云うと怖気ついでてしまいます。

責任を回避するわけではないのですが、もし何か事故が遭った時にはいつまでも苦小牧市の給食センターでこういうことがあったと。

食中毒すらそうですから。

(木村会長)

そういう覚悟で協力が必要だと思っます。

(晴山委員)

細かく先生達と話をしても、そういう思いもあつて何か起きて協力をしてもらっている先生とか教頭先生にそういう立場にさせたくない気持ちもあつて、しつこいけどやっけて行きましようというやり取りがあるんですよね。

本当に自分のことばかりを云えてやっけているわけではない

んです。

(藪田委員)

先程気をつけていても、間違っって口に入れて薬を飲んだとありましたが、どうして口に入ったのですか。

(晴山委員)

卵が入っているものについては卵を除いたものを別で作って食べているので、卵が入ったものを口にしたわけではないんです。

卵が入っているメニューはたとえ食べなくても献立に入っているものは先生が盛り付けており、そばに行かないという約束があったんですが、それがナアナアになっていて、その日は卵が入っていないクイッティオスープを皆でおかわりをしたら誰かの何かがすりかわって入ってしまったということなんです。

このように色々なことの可能性があって、本当は給食を食べないで弁当を食べれば良いと思うかもしれませんが。

給食を皆で戴けると言うことが当たり前でないということがあって、すごく学ぶことが多いです。

(藪田委員)

それをまた、事故みたいなものが起こってからじゃ遅いと言いつづけて行かないと誰もわからないので、勿論こういう場でおっしゃって戴くのもいいんですけど、お子さんにとってみれば嫌なことでもあるんですけどお母さんが言い続けないと。

(小松委員)

全市的にやるということは、ちょっとシビアかなと思うんですけど。

(藪田委員)

お母さんとかも巻き込んで行かないと、同じ子供達をクラスに持つ親としては知っておくことでアンテナを張って下さって子供達に気をつけようねって一言声をかけるだけでもマニュアルより効果があると思います。

勿論やってらっしゃると思いますけど、私は知りたいと思いました。

原因が説明の中でされていなかったのも、私も小学校の娘がいますし、上の中3の娘のクラスにも重度の子がいて、クラス全体で周知徹底されています。

引継ぎも親が声を大にしないと駄目だと思います。

分からない状態ではいつまでたっても分からない状態なので一番知っているのは親御さんなので先生の立場からすると親御さんから言って戴くのが一番引き継がれ、繋がっていくと思います。

(木村会長)

私が渡した資料について説明が雑駁になってしまっていますが、起きてしまった事故やヒヤリハットとかその状態を全市民的に何とかしましょうよということではないので、皆様にはそういう事例があることを知って戴きたかったんです。

確かにこの事例は危険ですので特殊とは言いませんがかな対策が必要な事例であるので、ちょっと衝撃的というか、こんなにやらなきゃならないのかという思いはあったかもしれません。

でもそれを言いたかったわけではないので、給食でアレルギーに対応していくことがこんなに拡がって行く、第2でも今後どんどん進んでいく可能性が強いので、そういう目で審議会としては理解をして戴きたいという趣旨です。

そのためにはどんなことをしているのかということを知って戴くことが必要かなと思って出した資料なのでそこを踏まえてご理解戴ければと思います。

(晴山委員)

私も誤解させてしまいましてすいません。

(木村会長)

こういうこともあるのでこれを踏まえまして、マニュアルを作ってくださいということではありません。

しかし、対応が必要になってゆくことは間違いないと思います。

(晴山委員)

親が言っていない訳ではないので、全て親発信になってやっております。

クラスの友達にもお母さん達にも先生達にも協力をしてもらって幸せに通っていて給食の大切さを知っています。

会長も言って下さいましたが、対応食ができてもうちの息子が食べれる訳ではないです、時間的に。

ですから、未来に繋がる為と思ってその場をお借りしてお話をさせて戴いてますので、もし気を悪くしたら申し訳ないです。

(木村会長)

その他に何かありませんか。

なければ本日の運営審議会を終了させて戴きます。

本日は大変お忙しい中ありがとうございました。